

9月

2日◇鷹島海底遺跡保存活用特別委員会

3日◇議会運営委員会

10日～24日

◇9月市議会定例会

10日◇議会改革特別委員会

14日◇議会運営委員会

15日◇全員協議会

◇広報特別委員会

24日◇議会運営委員会

10月

6日◇鷹島海底遺跡保存活用特別委員会

8日・12日・19日・22日・28日

◇決算審査特別委員会

14日◇広報特別委員会

21日◇全国高速自動車道市議会協議会理事会

(東京都)

22日◇伊万里・平戸・松浦・佐世保市議会・佐々町議会西九州自動車道建設促進協議会

要望活動

(佐賀市・長崎市)

27日◇九州市議会議長会理事会

(書面会議)

28日◇長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員意見交換会

(長崎市)

鷹島海底遺跡の調査・研究を国策により 推進することを求める決議

海底遺跡として国内初の国史跡に指定された「鷹島神崎遺跡」は、日本はもとより世界的にも蒙古襲来に関する遺跡として非常に貴重なものである。

この鷹島神崎遺跡を含む「鷹島海底遺跡」では、昭和55年からこれまで40年以上にわたり継続的に調査・研究が行われており、平成23年秋に琉球大学が、科学研究費を活用して元の沈没船の一部を発見され、平成26年度には、琉球大学と本市との連携協定に基づく合同調査において、2隻目の元軍の沈没船も発見されている。

現在、本市の埋蔵文化財センターでは大学や研究機関の先進的な研究が実施され、着実に実績を上げている。また、令和3年3月には、平成14年に発掘した大型木製品（隔壁板）を、太陽熱を利用したトレハロース含浸法で強化処理工程を終えることができた。この成果は、東アジアのような高湿度環境の地域をはじめ海外からも注目されている。さらに、2隻の元寇沈没船の発見に至る海域の様々なデータなど、当地で培われた研究成果は、我が国のみならず世界の水中遺跡保護の進展に貢献できるものとする。このことは、鷹島海底遺跡が、本市のみならず、世界に誇れる日本の宝であることを示している。

しかしながら、水中という特殊な環境にある遺跡の調査・研究は、調査手法や保存方法など陸上のそれとは異なる部分が数多く、多大な費用がかかるとともに、発掘後には保存処理や展示公開のための施設整備が必要となり、単独の自治体で取り組むには課題も多く限界がある。

よって、鷹島海底遺跡の保存と活用をさらに推進し、日本が水中考古学の分野で世界のトップランナーとなるためにも、松浦市議会は、次の事項について、国策として実現されることを強く望むものである。

1. 国立の水中考古学学術研究施設を松浦市鷹島町に設置すること。
2. 水中遺跡の調査・研究の推進に特化した制度を創設すること。

以上、決議する。

令和3年9月24日

長崎県松浦市議会